

平成 28 年度地域で決める学校予算事業第 1 回推進懇話会 意見概要

開催日時	平成 28 年 9 月 30 日（金）13 時 30 分から 15 時 00 まで
開催場所	市役所北棟 6 階 19 会議室
意見等を求める内容等	・「地域で決める学校予算事業」平成 27 年度および平成 28 年度の検証について ・「平成 29 年度地域で決める学校予算事業」のプレゼンテーションと意見交換について
出席者	参加者 3 人 事務局 13 名
開催形態	公開（傍聴人 3 名）
担当課	学校教育部地域教育課 地域学校連携係

意見等の内容の取り纏め

《本会議の目的》

地域で決める学校予算事業の実施にあたり、事業の方針、内容、成果、課題などについて助言、意見を求める。

《事務局による事業概要説明》

①「文部科学大臣表彰の推薦」について報告

平成 28 年度文部科学省大臣表彰推薦活動：平城西中学校区地域教育協議会

→文部科学省より、10 月末から 11 月初旬より、表彰の可否結果が連絡される予定

②「平成 27 年度、28 年度地域で決める学校予算事業」について、事務局の説明後、

アンケート調査結果、過去 5 年間の資料、事業計画、今後の展開などを基に意見を聴取。

③「平成 29 年度地域で決める学校予算事業のプレゼンテーション及び意見交換」について

事務局の説明後、意見を聴取。

■意見の概要

1. 平成 27 年度奈良市地域で決める学校予算事業アンケート調査の結果について

- ・本事業の効果を感じる割合が年々増加傾向にあるのは素晴らしいが、一方で学校側・地域側共に負担感が解消されていないように見受けられる。これは負担感の質が変化しているためとも考えられるが、それを客観的に捉えられる質問項目を新たに作ってもよいかもしれない。
- ・学校側・地域側、またそれぞれの役職や立場によって、意見がかい離している部分も見受けられる。コミュニケーションを密にすることで解消される部分もあると考えられるため、そのための仕組みを考えていく必要がある。
- ・「子どもたちが成長した」ことを示す客観的なデータがあれば、その成果を関係者が共有することで遣り甲斐を感じられ、また本事業の意義をより確認しやすくなる。
- ・経年変化を見るために同じ内容でアンケート調査を行ってきたが、より正しく現状を反映させ、そ

れを読み取れるようにするために、内容を見直していく必要がある。

2. 平成 29 年度 地域で決める学校予算事業「プレゼンテーションと意見交換」の実施方法について

- ・プレゼンテーションの方法を新しくすることは、この事業に刺激と緊張感を与えることになり良いと考えるが、このやり方では、一番力を入れたいと考えている取組と異なる地区も出てくると考えられるため、もう少し柔軟性を持たせては。
- ・新しいプレゼンテーションの方法であっても、全体の計画書・予算書と合わせた総合的な評価であり、プレゼンテーションのテーマとして選んだプランだけが評価対象でないことを改めてしっかり周知する必要がある。
- ・来年度以降でもよいので、各協議会が自己評価をするための数値目標を設定するように促してほしい。

■意見の詳細

1. 平成 27 年度奈良市地域で決める学校予算事業アンケート調査の結果について

- ・事業効果を感じる割合が年々増加傾向にあるのは、素晴らしい。
- ・教職員と地域の方との意見の乖離も見受けられるが、この乖離解消のためにコミュニケーションを密にしていく方策を考える必要性がある。
- ・例年のことだが、学校側・地域側ともに負担感が解消されていないように見受けられる。
「地域社会の理解が不十分」「連携が不十分」という項目が、年々増加していることも気になる。
- ・プレゼンテーション等を見ていると、そうした印象をあまり受けない。前向きに感じられる。
- ・新しいことをどんどん進めていること、また当事者の中での目標値が上がっていること、これらによって様々な点で「不十分」感や「徒労」感が募っているとも考えられる。
- ・負担感の質が変化してきていると考え、それを客観的に捉えられる質問項目を新たに作ってもよいのかもしれない。
- ・そもそもこの事業は負担感の軽減を目指しているものではないため、項目として取り除いてよいのかもしれない。
- ・「コーディネーターは、イベント遂行のために没頭はしているが、学校と地域を取り持つ役目に対しては不十分だと思う」という意見があるが、この状況は困る。
- ・事業をどのように見るかによっても、感じ方は変わると考えられる。コミュニケーションを密にすることで、解消される部分もあるかと考えられるが、どのような仕組みで行っていくかが課題である。今年度から導入した「めざす子ども像」の共有化については、「意見交換の良い機会となった」とコーディネーターから聞いたことがある。
- ・全体的に見ると「この事業があってよかった」と思っただけに感じているように感じる。4割の先生方は、この事業によって負担感が軽減されたと感じてくれている。
- ・先生方は子どもの成長に関わっていると感じられると忙しくても負担感を感じにくい。これが地域のため、保護者のため、となると同じ忙しさでも負担と感じてしまいがちなのでは。
- ・この事業によって、「子どもたちが成長した」という何か目に見える成果があれば、感じ方も変わっ

てくるのでは。その成果をどのように確認し、共有していくかが難しい。

- ・こういう事業を行っているとは基礎学力が高いとか、応用力がつくとか、そうした客観的なデータは、教育の現場として取ることが非常に難しいと考えるが、そうしたデータがあるならば、その成果を関係者が共有することで遣り甲斐につながると思うし、この事業の意義も確認できる。
- ・経年変化を見るために同じ内容で繰り返し行ってきたアンケートだが、より正しく現状を反映させ、それを読み取れるようにするために、今後この内容を検討していく必要がある。

2. 平成 29 年度 地域で決める学校予算事業「プレゼンテーションと意見交換」の実施方法について

- ・マンネリ化してきていたプレゼンテーションの実施方法を見直すことは、この事業に刺激を与えることにもなり、よいと思う。
- ・これまで地域や学校から聞いてきた課題と今後奈良市として推進していく必要がある取組を4つの重点的な取組プランとして提示し、その中から1つのプランを選んで発表してもらうのは、焦点も絞られてよいと思うが、プラン内容がこのままでよいかは検討が必要。3年先くらいまでは見据えたプラン内容とする必要がある。また、地区特有の課題もあるはず。
- ・この4つのプラン内容は確かに重要ではあるが、地区によっては、一番力を入れたいと考えている取組と異なる場合もある。そのとき、地域の方々が「これだけしか見てもらえないのか…」と感じてしまう可能性がある。もう少し柔軟性を持たせられないか。
- ・プランだけでなく、全体を見てほしい、と思うところもあるはず。評価をさせてもらうこちら側としても、全体を見たい。
- ・やり方を大きく変えることによって募ると考えられる負担感は、作成資料をポンチ絵1枚のみにすることで解消するということだが、計画の全体が見渡せる資料もほしい。
- ・地域の方々には、プレゼンテーションだけが評価対象ではないこと、全体の計画書・予算書と合わせた総合的な評価であることを、しっかり伝える必要がある。これまでも伝えてきたのだと思うが、実際のところ、「プレゼンテーションが全て」という感覚がどうしても拭き切れていない。
- ・長年、プレゼンテーションの公開を地域の方々には希望してこられた。この新しい実施方法は、公開することによって、より大きな意義を持つと考えられる。プラン毎に区切って発表すると、これから自分たちが行おうとしていることを他地区と比較できて有意義な情報共有となり得る。
- ・公開はやり方によっては、大きな効果を得られると思うが、その実施方法については、見学者はやりとりを聞いてもらうだけにする、などのルールや会場の選定を慎重に検討した上で、実現可能かどうか判断する必要がある。
- ・評価者全員が揃ってすべて見られるように、また1日で完結できるようにプレゼンテーションの計画を立ててほしい。
- ・来年度以降でもよいが、自己評価をするための指標を設定するように促してほしい。達成できなかったら、プレゼンテーションの評価が下がるといったようなことではなく、実際に活動に取り組んでいる人たち自身が、目指せる目標をたて、達成していくということが必要と考える。